

平成 27 年度 P D C A サイクルづくり支援事業 P 調査全県集計結果及び分析報告

教学指導課

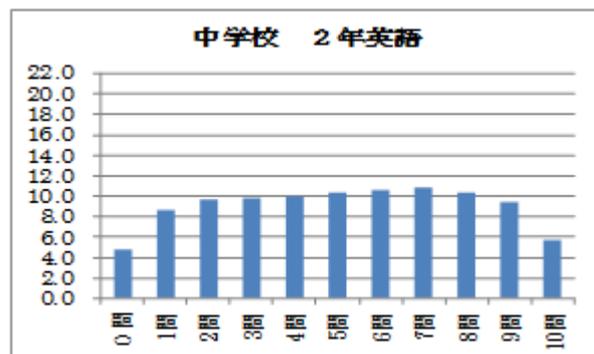
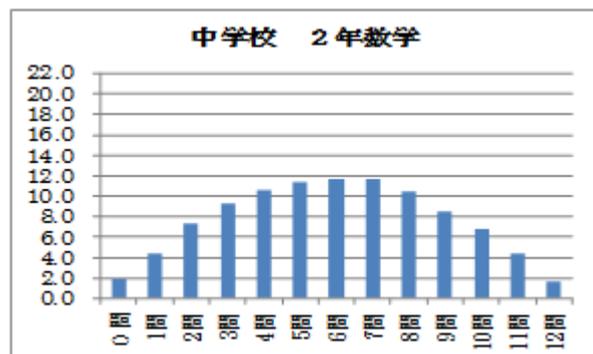
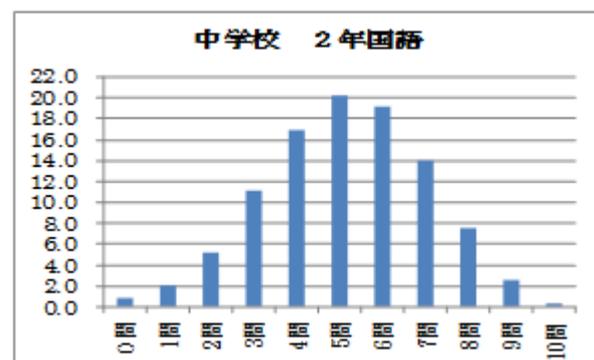
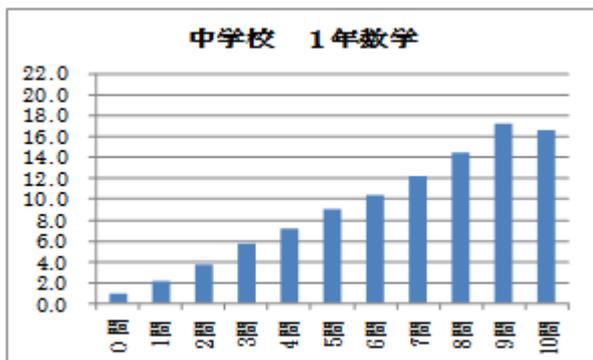
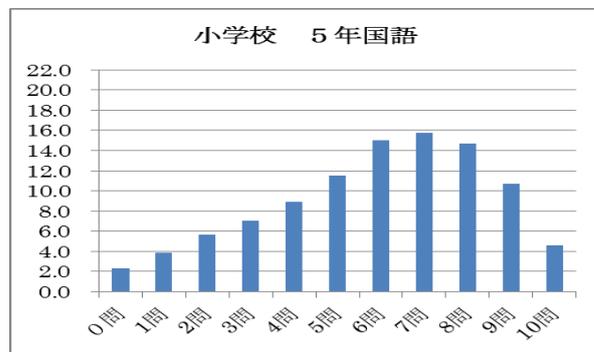
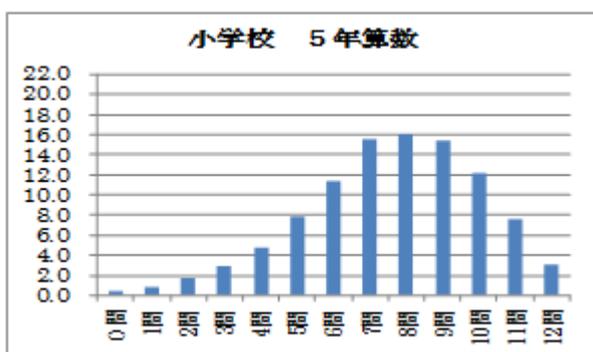
1 調査教科及び調査した児童生徒数

上段；参加人数 下段；参加校数

	国語	算数・数学	英語
小学校 5 年	15,641 人 (85.4%) 317 校 (86.4%)	15,646 人 (85.4%) 317 校 (86.4%)	
中学校 1 年		14,514 人 (74.6%) 155 校 (83.8%)	
中学校 2 年	15,122 人 (75.7%) 158 校 (82.7%)	15,302 人 (76.6%) 161 校 (87.0%)	15,338 人 (76.8%) 161 校 (87.0%)

(参考；全県 小5 18,319 人，中1 19,448 人，中2 19,969 人，小学校 367 校，中学校 185 校)

2 正答数の分布グラフ (単位%)



小学校の 2 教科は、右よりの分布となったが、国語については正答数の少ない児童の割合がやや高くなっており、きめ細かな支援をしたい。中学校数学では、1 年は正答数の多い生徒の割合が高いが、2 年では中央付近の割合が増えている。また、中学 2 年の国語、英語とも左右対称に近い形であるが、国語は中央が高いのに対し、英語はほぼ平らな形になっている。各校においては、自校の分布や昨年度の調査と比較をして傾向をつかみ、授業改善につなげていくことが必要である。

3 正答数の分布

(単位 上段；人，下段；%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問
小5 国語	357	603	890	1099	1390	1796	2345	2467	2296	1677	721		
	2.3	3.9	5.7	7.0	8.9	11.5	15.0	15.8	14.7	10.7	4.6		
小5 算数	71	140	268	466	746	1224	1778	2436	2516	2420	1911	1183	487
	0.5	0.9	1.7	3.0	4.8	7.8	11.4	15.6	16.1	15.5	12.2	7.6	3.1
中1 数学	140	312	549	826	1053	1312	1517	1784	2104	2503	2412		
	1.0	2.1	3.8	5.7	7.3	9.0	10.5	12.3	14.5	17.2	16.6		
中2 国語	121	315	782	1688	2558	3064	2900	2129	1149	381	52		
	0.8	2.1	5.2	11.2	16.9	20.3	19.2	14.1	7.6	2.5	0.3		
中2 数学	299	677	1118	1414	1618	1739	1793	1781	1608	1308	1035	673	246
	2.0	4.4	7.3	9.2	10.6	11.4	11.7	11.6	10.5	8.5	6.8	4.4	1.6
中2 英語	736	1332	1475	1497	1526	1578	1629	1668	1579	1436	881		
	4.8	8.7	9.6	9.8	9.9	10.3	10.6	10.9	10.3	9.4	5.7		

4 各問の正答率 (単位%)

○知識に関する問題 ◇活用に関する問題

小5 国語	1A ○	1B ◇	1二 ◇	2一 ◇	2二 目次○	2二 まじり○	2二 まじり○	3一 ◇	3二 ○	3三 ◇		
	64.6	47.5	78.4	40.2	72.6	76.5	78.5	39.3	61.0	31.2		
小5 算数	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【1】 (3)○	【1】 (4)○	【2】 ○	【3】 (1)○	【3】 (2)○	【4】 ○	【5】 (1)○	【5】 (2)○	【6】 ◇	【7】 ◇
	68.0	75.5	88.2	62.9	81.0	32.9	41.3	77.5	85.0	61.9	40.6	44.1
中1 数学	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ◇	【9】 ◇		
	80.3	88.2	60.4	74.2	56.9	66.9	84.3	58.7	57.1	60.1		
中2 国語	1一 ○	1二 ○	1三 ア◇	1三 イ◇	2一 ○	2二 ◇	2三 ◇	3一 ○	3二 ◇	3三 ◇		
	32.0	89.6	39.1	66.8	87.7	42.3	53.3	64.1	12.1	28.4		
中2 数学	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ○	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)○	【10】 (2)◇
	20.1	35.4	60.6	73.1	60.3	63.0	31.5	61.3	57.6	48.1	30.1	52.7
中2 英語	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ◇	【9】 ◇	【10】 ◇		
	49.0	75.5	54.8	38.4	53.3	49.0	57.5	46.1	45.3	43.4		

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率 (単位%)

	小5国語	中2国語	小5算数	中1数学	中2数学	中2英語
知識に関する問題	70.6	68.3	67.4	71.2	48.4	53.9
活用に関する問題	47.3	40.3	42.4	58.6	52.8	44.9

活用に関する問題では、学年が上がるにつれて正答率が下がっていく傾向にある。授業において、身に付けた知識を用いて問題を解決していくような場面や学習問題を意図的に取り入れていく必要がある。後ほど示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、授業改善を進めていきたい。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。P調査問題は、昨年までの学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、確実に知識が身に付くようにしたい。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

6 P調査結果から見た課題と授業改善のポイント

P調査結果で見た課題

- ・ 根拠を明確にして、自分の考えを書いたり説明したりすること。
- ・ 目的や意図に応じて適切に判断したり、伝えたい事柄を明確にして表現したりすること。

授業改善のポイント

- 1 問題に対する答えだけを問うのではなく、どのように答えを導いたのか、どうしてそのような考えをもったのかを説明する活動を取り入れましょう。
 - ・ 具体物や図を用いて説明させたり、意見を述べる際に根拠となる事実を明確にさせたりして、相手に分かりやすく伝えられるようにすることで、理解が深まります。
- 2 友達と話し合う活動を通して、相手の意図を的確に受け止めたり、立場を明確にして自分の考えを具体的に述べたりすることができるようにしましょう。
 - ・ 意見の共通点や相違点を整理して話し合う観点を明確にしたり、体験に基づいた具体例を挙げて自分の考えを文章で記述したりすることで理解が深まります。
- 3 これらのことを、小・中学校ともに、全教科で取り組むことが大切です。
 - ・ 上記1, 2のような授業改善の方向をグランドデザインに盛り込んでいる学校が多くみられます。各教科及び学級の授業改善がさらに進むよう取組を見直しましょう。

7 各教科・学年において課題となった問題と指導改善の方向

(1) 中学校 1 年 数学

【2】 正答率 60.4%

① 成果と課題

小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解すること

- ・ 成果としては、昨年度よりさらに正答率が上がり、6割の正答率に達した。
- ・ 課題としては、 $\bullet \div 1.3$ を \bullet より大きくなると解答している生徒が約 10% いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 20 年度全国学力・学習状況調査 45.1%
- ・ 平成 26 年度 P 調査 57.9%

③ 指導改善の方向

- ・ 数直線や図などを用いて、乗法と積の大きさ、除法と商の大きさの関係を調べる活動を取り入れることが大切である。これは、数の範囲を負の数まで拡張した場合も大切にしたい。
- ・ 問題を解決する際に、有効な手だての一つとして、整数など簡単な場合に置き換えて考えることがある。例えば、本問題の選択肢エ「 $\bullet \div 0.8$ 」の式で簡単に計算ができるように、 \bullet に 8 を当てはめて除数と商の大きさの関係を調べることができる。文字式の指導の場面でも、このように簡単な場合に置き換えて考える活動を通して、生徒が問題を解決する手がかりをつかむことができるようにすることが大切である。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・中 1・12 月① の活用

【4】 正答率 56.9%

① 課題

商が 1 より小さくなる等分除「整数 \div 整数」の場面で、除法が用いられることを理解すること

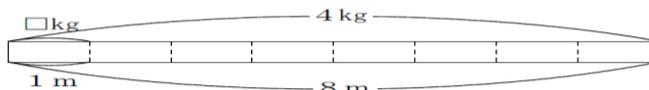
- ・ $8 \div 4$ と解答している生徒が約 30% いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 22 年度全国学力・学習状況調査正答率 54.1%
- ・ 平成 26 年度 P 調査 54.9%

③ 指導改善の方向

- ・ 商が 1 より小さくなる等分除「(整数) \div (整数)」の場面では、何が被除数で、何が除数かをとらえて立式できるようにすることが必要である。例えば、本問題では、下のような図をかく活動を取り入れ、1 m 分の重さを求めるために 4 kg を 8 等分すればよいことを理解できるように指導してきている。



中学校においても数直線や線分図で表す活動を通して理解を深めたい。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・中 1・5 月② の活用

【7】 正答率 54.9%

①課題

全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができること

・棒グラフと解答している生徒が約 25%いる。

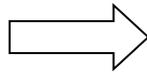
②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 19 年度全国学力・学習状況調査正答率 54.1%・平成 26 年度全国学力・学習状況調査正答率 61.7%

③指導改善の方向

- ・小学校では、目的に応じて、適切な表やグラフを選択し、表したり、読み取ったり、判断をしたりする活動をとおして、表やグラフを算数の学習のみならず、他教科等の学習や生活に活用できるよう指導している。
- ・中学校においても、例えば、本設問を用いて、4つのグラフ（絵グラフ・棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ）を提示し、目的に応じたグラフを選択することが考えられる。その際、**それぞれのグラフから何を読みとることができるかについて確認することが大切である**。そのことにより、絵グラフや棒グラフについては「数量の大きさやちがいのわかりやすさ」、折れ線グラフについては「数量の変化のわかりやすさ」、円グラフについては「全体と部分の関係のわかりやすさ」など、それぞれのグラフがもつ特徴が明確になる。

補充・補完指導をしましょう



クリア問題・中 1・4月①・② の活用

【8】 正答率 57.1%

①課題

はかりを適切に読みとり、与えられた条件を基に筋道を立てて考え、重さの求め方を式や言葉を用いて記述できること。

・解答類型の上記以外の解答が約 45%いる。

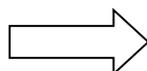
②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 24 年度全国学力・学習状況調査正答率 33.2%

③指導改善の方向

- ・小学校では、筋道を立てて考え、必要な数量を求める際に、問題場面から必要な情報を選択したり、情報を組み合わせたりして解決の見通しを立てる指導をしている。中学校においても、指導に当たっては、与えられた数量やそれらの関係を整理し、問題を解決するためには、**どの情報をどの順序で使えばよいのかについて、解決の見通しを立てて処理していくことが大切である**。例えば、解決に複数の段階が必要な状況を取り入れ、解決の見通しを明確にして情報を選択するとともに、解決の過程を記述し説明する活動を取り入れることが考えられる。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題・中 1・6月① 活用

(4) 中学校2年国語

1 三ア 正答率 39.1%

①課題 「A 話すこと・聞くこと」

話し合いの方向をとらえて司会の役割を果たすこと

- ・三つの意見を比較・検討して書いていない生徒が約 10%いる。
- ・無解答の生徒が約 15%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

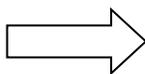
- ・平成 24 年度 P 調査【二】 72.3%
- ・平成 24 年度 C 調査【二】 94.2%

③指導改善の方向

- ・複数の案から一つに絞り込む話し合い（1一②「意見を一つにまとめる場合」）を行う際には、目的に応じて発言を整理しながら、議論の焦点を明確にする必要がある。その際、黒板等に図表を用いるなどして共通点と相違点などの観点に沿って、発言を整理する活動を行う。
- ・どのような観点で整理するかを明確にし、どのような図表を活用するのが有効かを考えることが大切である。本問の場合、長所と短所という観点でまとめている。黒板にまとめた図表を生かして、話し合いを進めたい。発言や記録のとり方（板書の仕方）を考え合うことも効果的である。

- ・授業では、話し合いの目的を明確にしたうえで、①参加者それぞれに発言の機会を与えること、②根拠や理由を明確にすること、③発言の内容を整理すること、④話し合いの結論を確認すること、などを意識させましょう。

補充・補完指導をしましょう



ファイナルチェック問題2の活用

2 二 正答率 42.3%

①課題 「B 書くこと」

文章を読んで、更に知りたいことを見いだして課題を決めることや、それを適切な方法で調べていくこと

- ・どんな観点で課題を検討すればいいかわからず解答している生徒が約 60%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

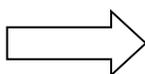
- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査 A 7 《課題設定や取材》 84.9%

③指導改善の方向

- ・文章をただ読むだけでなく、テーマを決めて読み、読んで疑問に思ったことや関心をもったことを基に、新たな課題を見出していく学習を行う場合、課題のたせ方が大切である。その課題を追究することでテーマへの理解を深めたり視野を広げたりできるか、解決の見通しが持てそうかななどを検討することが必要になる。

- ・授業では、次のようなキーワードを使って、課題を決めましょう。①「なぜ～」（理由や根拠を掘り下げる）②「どのように～」（状況や経緯、様子を詳しく調べる）③「どうすれば～」（課題解決のための手段や方法を詳しく調べる）④「どちらが～」（共通点や相違点を明らかにして比較する）

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題・中2・4月、2月 の活用

3二 正答率 12.1%

①課題 「C 読むこと」

登場人物の言動の意味を考え、その姿を想像すること

- ・中西さんの言葉の対象が「隣の部屋で様子をうかがう」仲間の言動であることが理解できず、適切な叙述を抜き出せない生徒が約 70%いる。
- ・無解答の生徒が約 15%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査 B 3二 《文章の解釈》 67.8%

③指導改善の方向

- ・文学的文章を読む際には、登場人物の思いなどを想像することが大切である。その際、自分が感じたことの根拠を、叙述や文章の展開に照らして明らかにする。
- ・また、その叙述が自分の考えの根拠として妥当であるか検討することも必要である。根拠の妥当性について意見を述べ合う学習活動が考えられる。

- ・授業では、「どこからそう考えたのか」を問い、根拠を明確にするようにしましょう。それが、話の展開や人物の設定を正しく捉えている場合、その姿をきちんと位置付けましょう。また、根拠となる叙述が同じでも考えが異なる場合や、根拠となる叙述がちがっても似たような考えになる場合には、比較し、根拠となる叙述や考えの相違を明確にしましょう。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・中2 12月の活用

3三 正答率 28.4%

①課題 「C 読むこと」

落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

- ・登場人物の本当の気持ちを想像しながら、演じ方を書けていない生徒が約 20%いる。
- ・無解答の生徒が約 20%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査 B 3三 《自分の考えの形成》 47.2%
- ・平成 26 年度 P 調査問題【四】 37.7%

③指導改善の方向

- ・文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに、依然として課題がある。
- ・本問のように、落語の一部を朗読したり演じたりする言語活動を設定し、読み方や演じ方の工夫を検討する学習活動が考えられる。その際に、登場人物の心情、人物相互の関係、話の展開などから根拠を明確にし、読み方や演じ方の妥当性について検討し、自分の考えをより確かなものになりたい。

- ・授業では、学習カードやノートに、「根拠」「登場人物の気持ち」「演じ方」の三つをきちんと書く個人追究の時間をしっかりと設けましょう。また、その三つについて友だちと交流する時間も設け、他の人の意見を参考にしながら、自分の考えを深めていく姿を評価しましょう。
- ・これらの学習の流れは、現代の文学的文章を朗読する学習活動の際にも活用できます。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・中2 10月の活用

(5) 中学校2年数学

【1】 正答率 20.1%

①課題

文字の値が整数の時に、式の値について考察すること

- ・ a を整数とすると、式 $3a$ で表すことのできる数を選ぶ問題で、0 を入れずに -3 、 6 と解答した生徒が約 20% いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 24 年度全国学力・学習状況調査 A² (3) 36.7%

③指導改善の方向

- ・ 文字のとり得る値の範囲を基に式の値を調べたり、式の値がとる範囲と文字の値との関係を検討したりして、数の範囲に基づいて式の値について考察することが大切である。例えば、0 は 3×0 というように $3 \times (\text{整数})$ の形で表すことができるので、0 は a を整数とすると式 $3a$ で表すことのできる数であることを確かめることが考えられる。

※ 2 学年の学習では、「文字式の利用」や「一次関数」において、整数や自然数などを文字で表す場面で、式の値を求め、問題の条件を満たしているかを考えたり、整数、自然数などの用語について復習したりする場面を設定することが考えられる。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 中1・①-2-6 の活用

レビュー問題 中1・②-1-3 の活用

【2】 正答率 35.4%

①課題

与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ること

- ・ エンピツを何人かの生徒に配るのに、1 人に 3 本ずつ配ると 14 本余り、1 人に 5 本ずつ配ると 10 本たりない状況を方程式に表したとき、 $3x+14$ 、 $5x-10$ が表すものを言葉で書く問題で、「配る鉛筆の総本数（本数）」、「エンピツを配る生徒全員の数」以外のものを書いた生徒が約 20% いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 21 年度全国学力・学習状況調査 A³ (3) 35.4%

③指導改善の方向

- ・ 文字式を利用する際には、事柄や数量の関係を文字式に表すだけでなく、文字式で表された事柄や関係を読み取ることができるように指導することが大切である。また、問題の中のある数量に着目し、等しい関係を意識して方程式をつくることを理解できるよう指導することが大切である。

※ 2 学年の学習では、「連立方程式」において、二元一次方程式をつくる時、着目する 2 つの数量を明確にして立式する学習だけでなく、表された連立方程式から、それぞれの二元一次方程式がどのような数量に着目して立式されたのかを読み取る学習場面を設定することなどが考えられる。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 中1・②-2-3 の活用

レビュー問題 中2・③-2-1 の活用

【7】 正答率 31.5%

① 課題

独立変数と従属変数の関係を的確にとらえ、その関係を「～は～の関数である」と表現すること

- ・ある宅配会社の料金と荷物の重さの関係について、「料金は重さの関数である」とするところを、「重さは料金の関数である」とした解答が約40%ある。

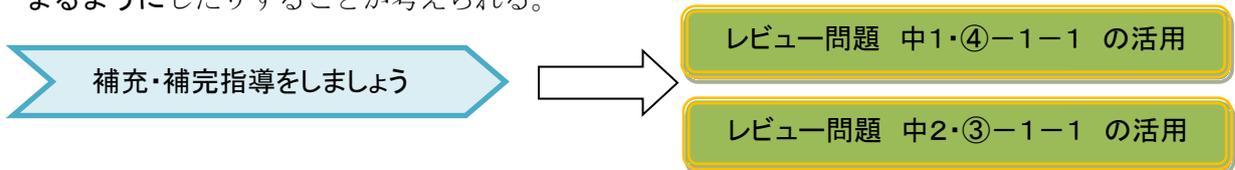
②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査 12.0%→平成26年度C調査 31.1%

③ 指導改善の方向

- ・独立変数(○○)と従属変数(△△)との違いを意識して「△△は○○の関数である」という形で表現できるように指導することが大切である。例えば、2つの変数の関係を「yはxに比例する」「yはxの一次関数である」等といった形で表現する学習において、「yはxの関数である」という表現を取り上げ、関数の1つとして「比例」「反比例」等があることを確認する場を設定することが考えられる。

※2学年の学習では、「一次関数」の導入場面において、「関数である」とはどういうことか確認する場を設定したり、単元末で「比例」「反比例」「一次関数」を関連付け、関数の意味理解が深まるようにしたりすることが考えられる。



【10】 (1) 正答率 30.1%

①課題

ヒストグラムについて、ある階級の相対度数を求めること

- ・0.25あるいは $\frac{1}{4}$ 以外の解答をした生徒が約40%いる。また、無解答の生徒が約15%いる。

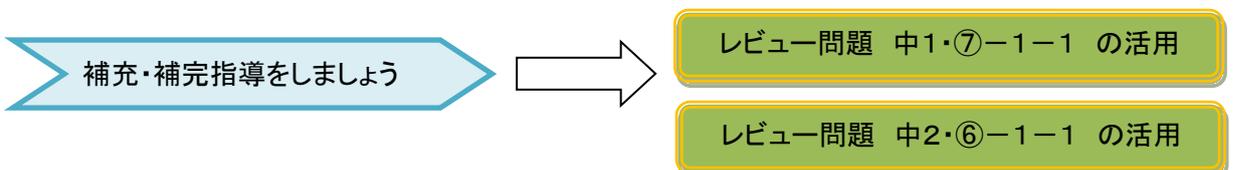
②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成25年度全国学力・学習状況調査 22.8% 平成26年度P調査 25.7%

③指導改善の方向

- ・相対度数の意味や必要性についての理解をさらに深めるため、生徒にとって身近な場面で資料を収集して、ある階級の相対度数から、資料の傾向を読み取る活動を設定することなどが考えられる。

※学期末や学年末などに補充・補完指導を行う時間を設定したり、「確率」の単元で、確率の意味理解を深める場面において、実際に複数のさいころを振り、それぞれの数が出た回数を度数分布表にまとめ、確率と相対度数を関連させて学習する場を設定したりすることが考えられる。



(6) 中学校2年英語

【4】 正答率 38.4%

①課題

本文の内容について、疑問詞を使った簡単な質問を理解し、適切に答えること

- ・ He like basketball.のように、質問を理解してはいるが、一般動詞を3人称・単数・現在の形に直すことができていない生徒が約10%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

平成25年度P調査 25.2% 平成25年度C調査 21.9%

③指導改善の方向

- ◇教科書本文にかかわる wh-疑問文について、段階的に書く活動を通して、正しい応答の仕方を確実に身に付けましょう。

QA活動において次のような段階を踏みましょう。

- 1 文中から答えにかかわる英文を見つけ印をつける。
- 2 どうしたら適切な英文になるか、「代名詞」「動詞の形」を観点に考え合う。
- 3 印をつけた英文と、適切な形にした英文の両方をノートに書き、変化を確認する。

【8】 正答率 46.1%

①課題

紋切り型の応答や一往復だけの言葉のやりとりで会話を終わらせるのではなく、必要な表現を用いて会話を継続させること

- ・ Paul が相手の依頼を受けているのか受けていないのかが判断できないため、あいまいな表現である well…を含むエを選択した生徒が約30%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

平成26年度C調査 50.7%

③指導改善の方向

- ◇帯活動などを通して、話を継続したり発展させたりすることに慣れ親しむことができるようにしましょう。

Let me see. や Well, など、会話を続けるために用いられる表現を練習する。1分間対話などの帯活動を位置付ける。使えた表現をファイルに蓄積し、すぐに見直せるようにする。

- ◇教科書本文をモデルとして、紋切り型でない言葉のやりとりに多く触れさせましょう。

質問に対して Yes/No とは答えていない対話場面を取り上げ、多様な表現に慣れ親しませる。
(例) [New Horizon 2 P18,19]

A: Could you read it for me, please? — B: No problem. Show me the part.

- ・ 上の対話について、BはAの依頼を受けているかどうか、ペアで話し合う。

【9】 正答率 45.3%

① 課題

相手の意向を汲み、適切に応じる正しい英文を2文で書くこと

・相手の意向を汲んでいるとは判断できない英文を書いた生徒が約10%いる。また、無解答の生徒が約20%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成26年度C調査 35.7% ・平成26年度P調査 27.1%

③指導改善の方向

◇ コミュニケーション活動を行う際は、相手の意向を汲み、適切な表現を考えて応じる場面設定を工夫しましょう。

(例) 電話の会話

【導入】 生徒がやってみたくなるスキットを提示し、学級の実態に合わせた Today's Goal を設定する。

【展開】 口頭練習をして十分スキットに慣れた後、例示されたものの中から相手の依頼に対する適切な応答文を選択（または作文）し、ペアでスキットをアレンジして発表し合う場面を位置付ける。

【終末】 Today's Goal に照らして生徒自身が学習を振り返り、できた喜びを味わえるようにする。そして、一人一人の学習カードに朱を入れるなどして適切な応答文が書けたかを見とどけ、不十分な場合には家庭学習等で定着できるようにする。

【10】 正答率 43.4%

① 課題

身近な場面について書く内容を構想し、正しく英語2文で書くこと

・内容的には理解できるが、文法的な間違いがある2文を書いている生徒が約20%いる。また、無回答の生徒が約15%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成26年度C調査 30.3% ・平成26年度P調査 28.5%

③指導改善の方向

◇ 身近な事柄や自分の考え、気持ちなどを表すために必要な文法事項や表現を教科書等で学習した後、生徒が書く必要感や目的がもてる場を設定した上で、書く活動を位置付けましょう。

(例) 日記

【導入】 ある教師の夏休みの絵日記等を口頭で紹介し、ジェスチャーなどを付けながら感想や気持ちに生徒の関心が向いていくようにする。その上で「感想や気持ちを含めた、2文以上の夏休みの日記をかこう」と Today's Goal を設定する。

【展開】 使えそうな表現を一覧表にした学習カードを配付し、体験したことと感想の2文をセットにしていくつか書き出すなどして日記を構想できるようにする。

【終末】 Today's Goal に照らして生徒自身が学習を振り返り、次時への活動の期待がもてるようにする。そして、生徒一人一人の学習カードに朱を入れながら表現のよさを認める。